

天文台だより

銀河の森天文台
2025 冬号
Vol.110

11/8(土)、「驚き！おもしろ科学実験2025」を開催しました！



11月8日(土)に「驚き！おもしろ科学実験2025」が開催されました。館内には、名古屋大学・京都大学・北見工業大学の先生や学生による実験ブースや、足寄動物化石博物館による発掘体験ブースなどが並び、たくさんのお客様が各ブースをまわりながらゆっくりと楽しんでいました。当日はりくべつ牛乳のプレゼントもあり、「今まで飲んだ中でいちばんおいしい！！」とお客様から感想が寄せられました。

10/18(土)、北海道・星見人の会2025 & 村瀬清華助教特別講演会開催！

10月18日(土)に全道各地から星空愛好家が集う星見人の会が開催され、計45名の参加者が親睦を深めました。

また同日、北見工業大学助教 村瀬清華氏による特別講演会「極地と北海道のオーロラ観測で見える宇宙と地球のつながり」も開催され、講師のお話に皆さん深く関心を寄せていました。



▲講演会でお話をする村瀬先生

「館長コラム」

今年も冬がきました。寒さの厳しい季節ですが陸別では晴れる日が多くなります。星が見られる時間も長くなるのでうれしい季節です。でも、自分の望遠鏡を制御するためにノートパソコンを使っていますが、突然電源が切れてしまうことがあります。



館長 津田浩之(双子座)

寒さで止まってしまうのです。対策としては、電気座布団を使っています。極軸合わせやピント合わせなど撮影のための準備さえ終われば、室内や車内から有線やWi-Fiで制御できます。この季節でしか楽しめない天体もあるので-20度以下でも観測します。自分が寒さで凍りついてしまわないようにすることも大事です。一番は、足元です。足が冷たくなると我慢できません。極地仕様の耐寒ブーツを履くとたいの寒さは大丈夫です。上下ダウンのウェアと帽子マフラーで備えます。問題は手の指先です。細かい作業をするときは、手袋を外します。最近私が使っているのは、指の第1関節までは露出していて、指先を使わないときは親指とそれ以外の指先をカバーできる手袋を使っています。なかなか便利なものです。皆さんも耐寒装備をして厳寒の天体観測を楽しんでみてはいかがでしょうか。

冬のイベント情報 !!

☆冬の大三角と天体観望会

明るく輝く冬の大三角を探すほか、オリオン大星雲など、この時期見ごろを迎えている天体を観望します。

開催日：1月14日(水)～25日(日)

説明会：午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

☆木星と冬の天体観望会

1月10日に衝を迎え見ごろとなっている木星や、冬おすすめの天体を観望します。望遠鏡では、木星の縞などじっくり観察することができます。

開催日：2月4日(水)～15日(日)

説明会：午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

☆皆既月食観望会

2025年9月8日から約半年ぶりの皆既月食です。開催日は特別開館し、22時30分まで開館時間を延長します。ぜひ、ご来館ください！

開催日：3月3日(火)

月食情報：【月の出(陸別町)】17:00 【部分食】始18:50

【皆既】始20:04、最大20:34、終21:03 【部分食】終22:17

☆2025年度銀河の森天文台写真展

銀河の森天文台で撮影した最近1年の写真の展示および、皆様が最近1年で撮影された天体写真を公募し展示します。詳しい応募方法は天文台HPをご覧ください。

募集期間：1月4日(日)～2月28日(土)

展示期間：3月7日(土)～22日(日)

暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
1月 1日	6:53	16:03	12.1	13:13	04:37
1月 15日	6:51	16:18	26.1	4:10	12:38
2月 1日	6:38	16:40	13.3	15:34	6:26
2月 15日	6:20	16:58	27.3	5:17	14:18
3月 1日	5:59	17:17	11.6	14:31	4:58
3月 15日	5:34	17:34	25.6	3:47	13:08

天文行事&暦

1月

12/28-1/3 天文台休館日
3 ○満月
4 しぶんぎ座流星群が極大
(AM6時 最大20個/時)
5 小寒(24節気:太陽黄経285°)
10 木星が衝
(光度:-2.7等, 視直径:46".6)
14-25 冬の三角と天体観望会
19 ●新月
20 大寒(24節気:太陽黄経300°)

2月

2 ○満月
4 立春(24節気:太陽黄経315°)
4-15 木星と冬の天体観望会
17 ●新月
19 雨水(24節気:太陽黄経330°)
20 水星が東方最大離角
(光度:-0.4等, 離角:18°07')

3月

3 皆既月食観望会、特別開館
○満月
皆既月食
(始20:04、最大20:34、終21:03)
4 振替休館
5 啓蟄(24節気:太陽黄経345°)
7-22 2025年度銀河の森天文台写真展
19 ●新月
20 春分(24節気:太陽黄経0°)

11/12(水)の夜、低緯度オーロラを 観測しました！

2025年に出現した低緯度オーロラのうち、
銀河の森天文台では2回目に肉眼でも見え
た観測となります。YouTubeで動画を公開しています！



2025年太陽系天体みどころカレンダー

★黒線期間が見頃の時期、点線期間は短時間ですが見える時期になります。○:満月 ●:新月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
月	○ 3 ● 19	○ 2 ● 17	○ 3 ● 19	○ 2 ● 17	○ 23 ● 17	○ 30 ● 15	○ 29 ● 14	○ 28 ● 13	○ 27 ● 11	○ 26 ● 9	○ 24 ● 9	○ 24 ● 9
太陽	晴れていれば館内で、太陽望遠鏡で撮影した現在の太陽の映像を見ることができます。											
水星												
金星												
火星	2026年は、天文台開館中に火星を肉眼で見えることはできません。											
木星												
土星												
天王星												
海王星												

2026年の天文台開館中に太陽系の天体たちが見
頃となる時期をカレンダーにまとめました。

2026年は3月3日に皆既月食があり、伝統的七夕
は8月19日、中秋の名月は9月25日となります。

2026年もたくさん空を眺めて楽しみましょう！

天文台からのお知らせ

- ☆ 12月28日(日)~1月3日(土)の期間は、天文台休館
日となります。
- ☆ 3月3日は火曜日ですが、特別開館・22時30分まで
延長開館いたします。
- ☆ 3月4日(水)は、振替休館となります。



“ハロウィンナイト観望会”
ご参加ありがとうございました！

星座小噺「神と人間の双子」

今回は黄道12星座の1つでもある冬の星座、ふた
ご座についてお話していきます。

ふたご座の頭にあたる2つの星はポルクスとカス
トルと呼ばれ、それぞれ1.16等と1.58等の明るさで、
夜空が明るい場所でも肉眼で見つけやすいです。

この2星はギリシア神話に登場する、大神ゼウスと
スパルタの王妃の子である、ポルクスとカストルが
モデルとなっています。現在、双子としてみられてい
るこの2星ですが、古くから何らかのペアとして見ら
れてきました。バビロニアでは現在と同じように、こ
の2星を双子に見立て、大きな双子と呼んでいまし
た。また日本では人や生物に見立てた方言が数多く
伝わっています。カストルとポルクスの色の違い
に着目した「金目・銀目」と
いう呼称もあったとされてい
ます。

国や地域、時代によって
星の名称は様々です。どの
ような名称だったかを知る
ことによって、その時、その
場所で人々が星に何を思っ
たかを感じることができると
かもしれません。(寺)



プラネタリウム情報!!

プラネタリウムは、開館日の土・日・祝日のみの上映になります。

定員: 10名(入館者先着順、受付にて整理券を配布)
上映時間: 午後3時、4時、5時(開館日の土・日・祝日のみ)
上映番組: 「今夜の星空」(各回約10分)

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)
〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100
URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>
E-mail: ginga@rikubetsu.jp X(旧Twitter): @ginganomori_obs

